

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 後藤隆徳

年月日 平日＝2010年11月18日（木・晴）12名  
休日＝2010年11月28日（日・晴）24+3名

回数 2009期＝第18回巡礼  
2010年＝第7回巡礼

巡礼寺・順 ●七十八番札所 禅海寺（ぜんかいじ）

- \* 本尊・釈迦如来
- \* 山号・祥雲山
- \* 臨濟宗（帰一寺・末寺）
- \* 草創・1190-97(建久年間)
- \* 寺の古文書によると、「建久三年、栄西禅師ここに来て、一堂を作り、禅海寺と名付けた」とある。
- \* 松崎町江奈44 0558-42~0765

●七十九番札所 建久寺（けんきゅうじ）

- \* 本尊・観世音菩薩
- \* 山号・曹源山
- \* 臨濟宗（帰一寺・末寺）
- \* 草創・1190-97(建久年間)
- \* 草創当時は別の場所にあった年代は不明だが檀徒と供に、一村落で移住し建久寺村と言った。往時は大刹であったが、1507(永世四年)に火災で一切を焼失する。
- \* 無住寺院の為、御朱印は近所の建久寺酒店（東電変電所前）で頂きます。(0558-42-0093)近くに電話がありませんので要注意です。
- \* 松崎町建久寺

●八十番札所 帰一寺（きいちじ）

- \* 本尊・観世音菩薩
- \* 山号・万法山
- \* 臨濟宗（建長寺・末寺）
- \* 草創・1301(正安三年)
- \* 元(今の中国)出身の名僧・一寧により開山する。  
一寧は元の国書を持っていた為、密偵の疑いを受け伊豆に流されていた。

- \* 現在の本堂は、1848(弘化五年)に建てられた。
- \* 松崎町船田39 0558-43~0213

●八十一番札所 宝蔵院(ほうぞういん)

- \* 本尊・延命地藏菩薩
- \* 山号・富貴野山
- \* 曹洞宗
- \* 草創・800(延暦十九年)
- \* 僧・空海(後の弘法大師)が草創、金剛法蔵密院と称した、1469-87(文明年間)を最後に衰退する。  
1501-04(文亀年間)普門院四世・清安が再興して曹洞宗に改めた。
- \* 参道中央、背中合わせの百三十体の石仏群がお出迎え。
- \* 無住寺院の為、御朱印(お札)は松崎側は(吉長さん 0558-43-0097)、西伊豆側は(梅田さん 0558-58-7200)で頂きます。
- \* 西伊豆町大沢里

距離 約1Km + 約2.5Km + 約1Km + 約7Km(上り) + 約6.5Km(下り) = 約18Km

タイム 下土狩6:30-土肥-松崎・那賀川7:55-禅海寺9:00~15-建久寺9:00~15-帰一寺9:30~10:10-宝蔵院12:00~13:00-慈眼寺14:15~14:35

温泉 せせらぎの湯(500-)

法話 帰一寺(平日のみ、1000-)

引用文 「伊豆霊場振興会」HPから引用しました。

バーン、ガガガガ〜。休日巡礼時、マイクロバスが宇久須地先の下りカーブにさし掛った時、突然右前輪がバーストした。マイクロバスは何十年利用しているが、こんな事は初めてだ。

見ればタイヤは完全に破れ、中のワイヤーが見える。おお、恐ろしや。もしこれが高速道路だったらどうだろう。今回運転のD観光の社長がレンチに上ってネジを緩めるが簡単に外れない。機転が利くKさんが近くで工事用のパイプを拾って来た。それを皆で回してようやくネジが緩んだ。バス会社はパイプな



パンクタイヤ

禅海寺



ど常に用意しておくべきだ。

前回最終の伊那上神社から出発。平・休日とも天気は良かった。今日のコースは、伊豆巡礼三大難所の一つの「宝蔵院の上り」がある。天気が悪かったら最悪だけに良かった。

那賀川の橋を渡ると程なく七十八番・禅海寺に着く。本堂に上がってお勤め。両日ともご住職がいて顔を出してくれた。休日時はAさんがお休みだったので、Kさんがご朱印を頑張ってくれた。



禅海寺住職

七十九番・建久寺に向かう。この辺はノンビリした田園風景が続く。道端の防火水槽に金魚が泳いでいた。民家の庭先には大豆が干してあった。聞けば「味噌」を作ると言う。さぞ美味しいでしょう。

畑の中央には「カルガモ」が何羽か飼われていた。囲いはあるが上は空いている。飛んで行かないのかな??。古い格式ある家がユース・ホテルだった。最近では珍しい。平日時は、畑の中の鶏も放し飼いになっていた。畑仕事のオバサンにご挨拶。



建久寺



建久寺に着いた。入り口に前回なかった立派な石柱があった。これだけの物を建てるすには相当お金が掛るだろう。本堂内も前回に比べいろいろと補強がされていた。

休日時、檀家代表で寺番の松本森男さんが寺の歴史などを説明してくれた。昔は土地も多く裕福だったが、農地開放で土地を失ったとのこと。現在は檀家も40軒ほどでお金が大変とのことでした。ご苦労様です。

ここから寺の裏道を再び田舎道を辿り、八十番・帰一寺に向かう。程なく到着。ここも近い。平日は田中道源住職が法話、お勤めを一緒にしてくれたが、休日は法事最中で話は出来なかった。



帰一寺と田中住職



平日時住職の話は、寺の歴史・鎌倉時代の高僧一山一寧の「お互いの中身も違えば能力もちがう、それを踏まえた上で、皆で仲良く生きて行きましょう」のような話だった。

2年前訪れた時は、奥様がお産で実家に帰り不在だった。今回は1歳半にな

るご息子が元気に境内を跳ねていた。確実に世代交代は進んでいます。

2年前だが、ここには山門を潜り左に行くと約6500巻の大蔵経が納められている経堂で六角形の輪蔵がある。輪蔵を一回転すると経本を一度読んだのと同じ功德があり、左回りに一回転すると願い事がかなうそうです。チベット仏教の「マニ車」と同じである。これは他寺にはない凄い財産だ。

ここから八十一番・宝蔵院に向かう。いよいよ上りで2時間の「遍路ころがし」。「遍路ころがし」とは、本場四国にあります。お遍路さんを撃退するような厳しい所の意味でしょう。平日は可なり暑かった。休日も結構暑かった。



平日班

休日班



1時間ほど頑張り松崎町が俯瞰出来る所で小休止。皆さんから美味しいものが沢山回って来ます。今回もKさんの「サツマイモ」を頂いた。

再び歩を進めると漸く平坦な道になり皆さんホッと一息。この先に宝蔵院の分かれ道。右は林道、左は大師道。平日時は左を選びましたが、手入れがなくなり荒れ歩き難くかった。休日時は林道を歩いた。

急坂を抜けると駐車場に着く。ここから宝蔵院の参道が続く。右に折れると



宝蔵院

石仏群



江戸時代の「宝蔵院石仏群」が並んでいる。その数、約120で弘法大師・観音さま・お地蔵さまなどが整然と佇立している。説明板によると、信仰深い村人が背負い上げたとある。これは南アルプスの鳳凰山・地蔵岳にも見られる。

山門はない。ただ良く見ると礎石みたいなのはあるので、昔は立派な山門があったと思われる。

既に寺番の白川・梅田さんが待っていた。この寺は、松崎側と仁科側に寺番がいる。ただ、松崎側は、ご朱印でなくお札になる。



梅田さん

梅田さんは仁科白川で製材業を営んでいる。前回はわざわざ家まで訪ねてご朱印を頂いたが、今回は来て貰った。平日時は丁度昼食で皆さんの差し入れて一緒に頂いた。

昼食・休憩後、八十二番・慈眼寺に降りる。長い下りで約1時間半。林道をグングン降りる。仁科川の一色橋を渡りしばらく歩き慈眼寺に着く。今日のお風呂は近くの「せせらぎの湯」安くいい湯でした。



平日班



休日班